

七十苧遺跡で新たな発見

町教委・埋蔵文化財調査

小林地区河川改修工事及び介護施設新築と車庫新設工事がある小林地区の七十苧遺跡の範囲で埋蔵文化財調査が平成21年8月から10月まで行われ、新たな遺構や遺物が発見されました。調査に携わった町教育委員会の渡部賢史学芸員に調査の概要について報告してもらいました。この調査は、昨年11月の調査に続き行われたものです。

調査の概要

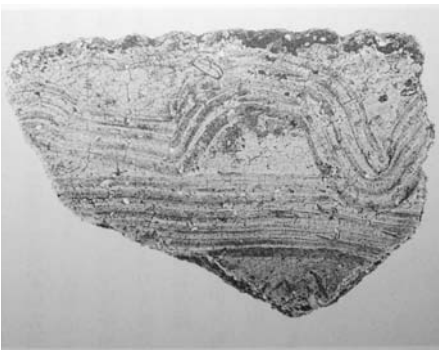
昨年11月、小林区の河川改修工事の照会が県からあり、七十苧遺跡の範囲の近くを通ることから、照会があった翌週より試掘調査を実施。3Tから竪穴住居跡と弥生土器を確認しましたが、降雪のため約1週間の調査となりました。

平成21年5月に、福島県教育委員会、南会津建設事務所と町教育委員会で協議を行い今年度も引き続き調査を実施することが決まりました。

また、介護施設の新設も重なり、8月24日から調査を開始しました。

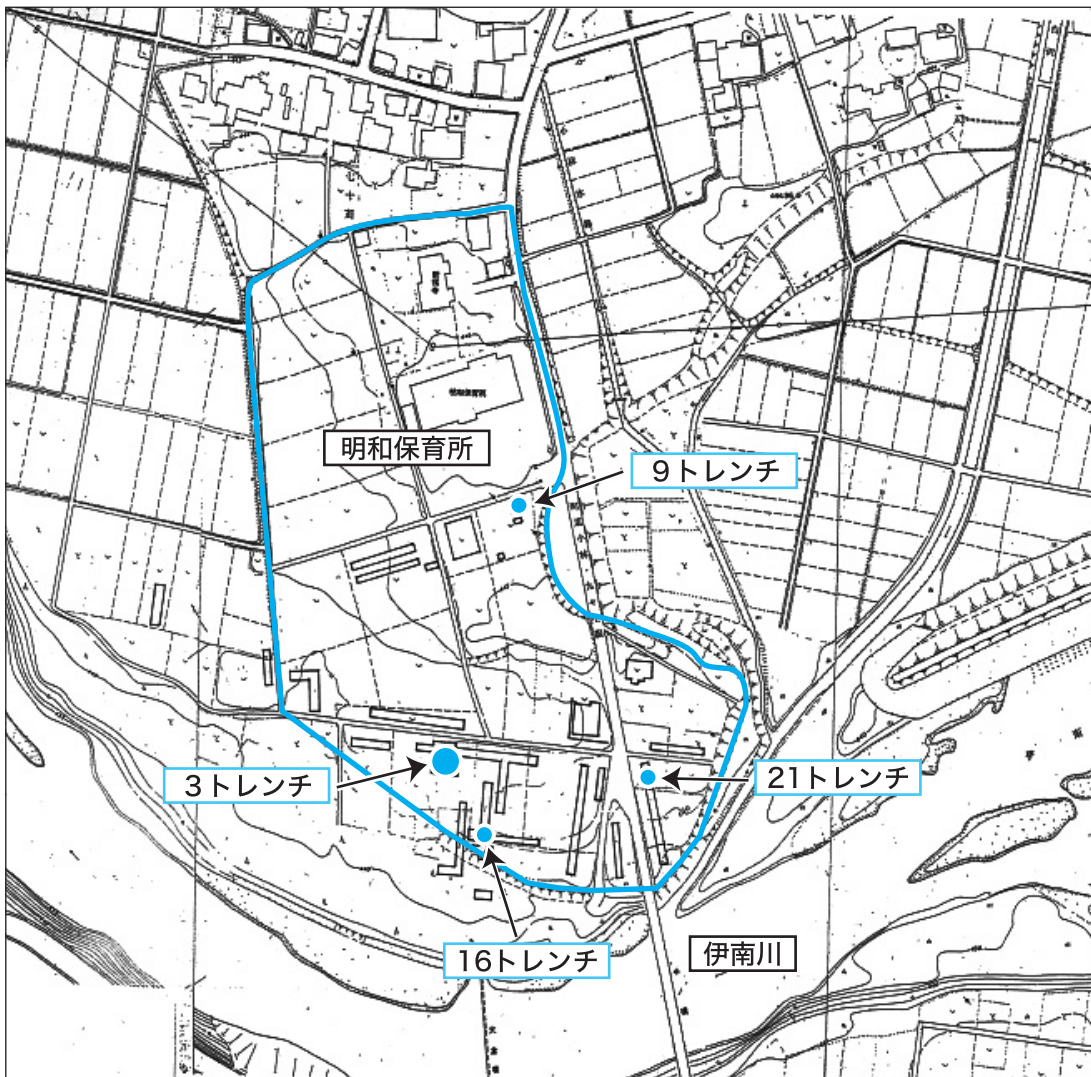
七十苧遺跡とは？

小林字七十苧に所在します。現在の明和保育所及び新福寺を中心として遺跡範囲が広がっていると考えられていましたが、今回の試掘調査で、もつと南側まで遺跡範囲が広がっていることが分かりました。数十年前に木本氏によって刃痕が付着した土器を発見され、只見地方にも弥生時代に稲作が伝わっていたことを証明する土器が発見されている遺跡です。この土器は、現在県立博物館に展示されています。また、只見町史第1巻及び第4巻にも紹介されています。



▲七十苧遺跡出土土器

<七十苧遺跡の範囲>



渡部賢史学芸員

河川改修工事の

試掘調査

(T1トレンチ
・・・試掘坑の略)

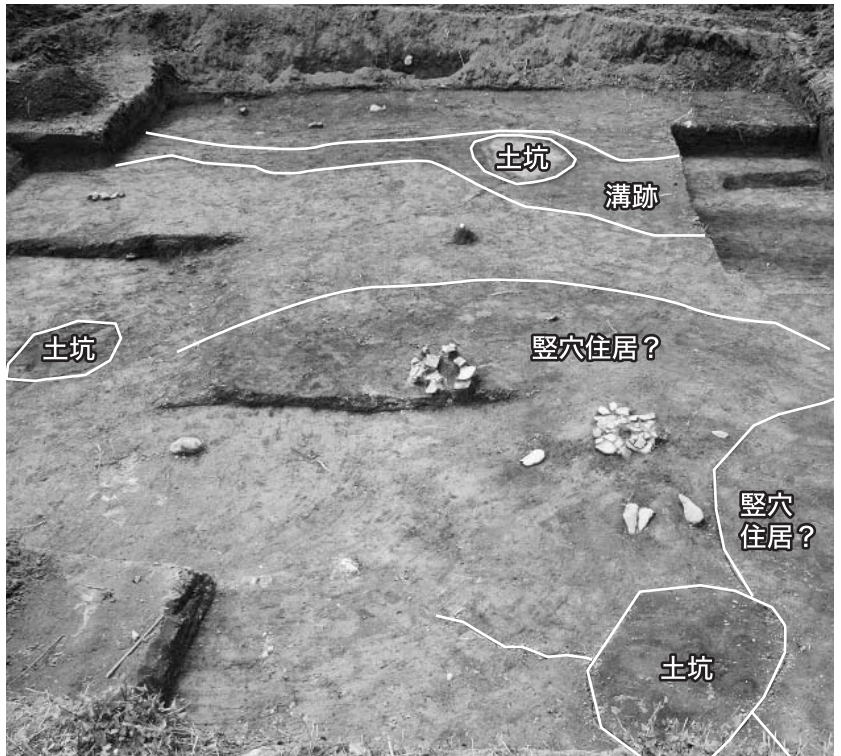
昨年度、降雪のため調査を実施できなかった部分の試掘調査と竪穴住居が確認された部分の記録のため、調査を実施。確認した遺構総数は、竪穴住居跡2棟、土坑3基、溝跡1基、柱跡12基確認しています。取り上げた土器の総数は縄文土器2点、弥生土器79点、石器等の石製品が16点発見されています。

3Tは特に集中して遺構・遺物が確認されています。竪穴住居跡2棟、土坑2基、溝跡1基とカマド跡と考えられるところに土器が集中して発見されています。取り上げた遺物は合計で11点ですが、土器が集中している場所については、取り上げずに再度埋め戻しを行っています。

16Tからは土坑1基と柱跡が12基確認しています。21Tからは遺構は確認できませんでしたが、弥生土器1個体分が潰れた状態で出土しています。弥生土器は、時代を調査していますが、「南会津での発掘の事例が少ないためはつきりと言えないが、弥生時代の終末期の土器だろう」との県立博物館からのコメントをいただいています。



▲第16トレンチ土坑検出状況



▲第3トレンチ遺構検出状況



▲第21トレンチから出土した弥生終末期の土器

介護施設新築及び 車庫新設工事の 試掘調査

6本の試掘坑を設定し、2週間の調査を実施しました。確認した遺構の総数は土坑2基、出土した遺物の総数は、縄文土器42点、弥生土器1点、石器3点確認しています。

新設車庫の地点(9T)から土坑2基を確認しました。また、出土した土器もつとも多く縄文土器が39点出土しています。土坑とは、人間が掘りくぼめた穴で、柱跡より大きく、性格が極めて分かりにくい穴のことを指します。また、水道管が通る予定の11Tから縄文土器3点、12Tから弥生土器1点、石器1点、剥片1点を確認しています。



▲第9トレンチから出土した縄文中期の土器

このように遺構及び遺物が確認されましたが、県教育委員会と協議を行った結果、図面や記録保存し、町教育委員会が工事立会を行いながら工事着工しています。



▲第9トレンチの土坑2基と土器出土状況

来年度以降の 調査について

昨年度と今年度の試掘調査のデータから県教育委員会と町教育委員会と協議を行った結果、調査し記録を残す必要があると指導を受けました。調査の対象面積4,151m²の本発掘調査を実施し、図面と土器等の記録保存を行うことが決まりました。平成22年度から本発掘調査を実施する予定になっています。来年度も関係者各位のご協力をお願いします。